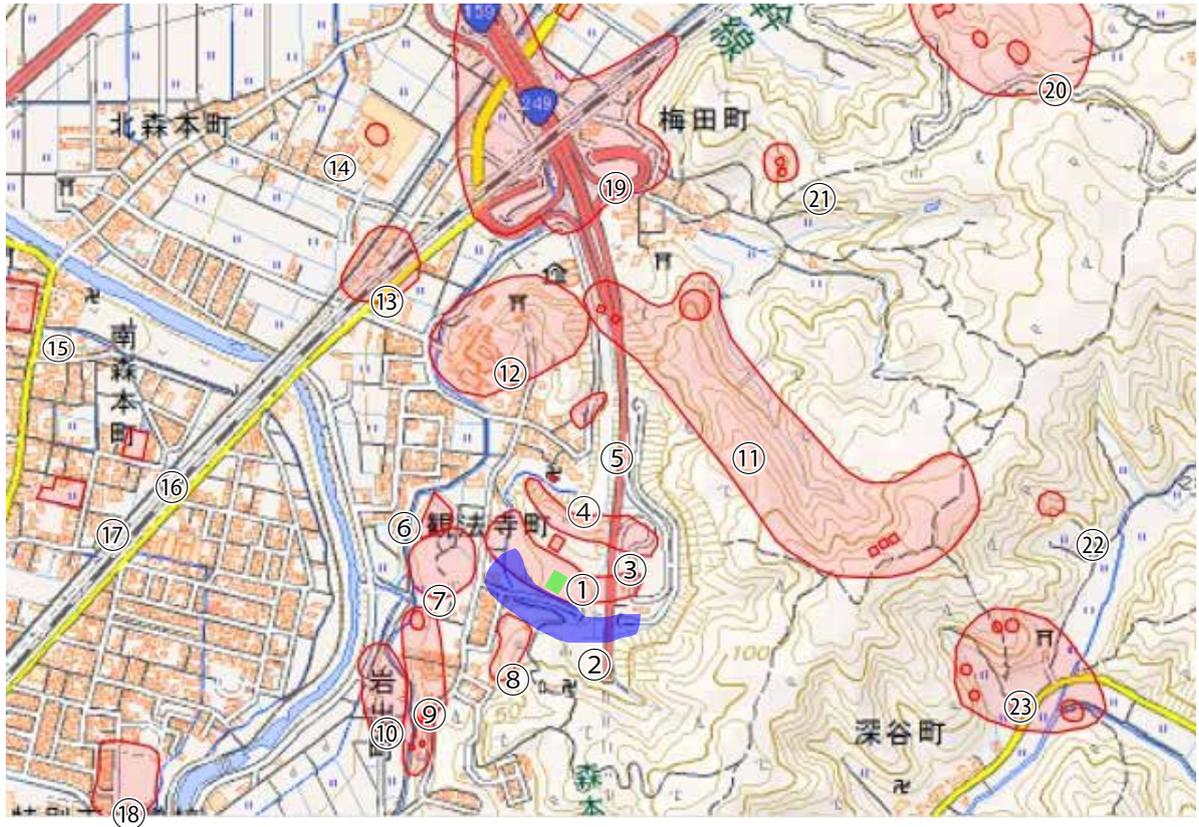


金沢市 観法寺ヤツタ遺跡・観法寺ジンヤマ窯跡 現地説明会資料

平成30年11月23日(金)

(公財)石川県埋蔵文化財センター

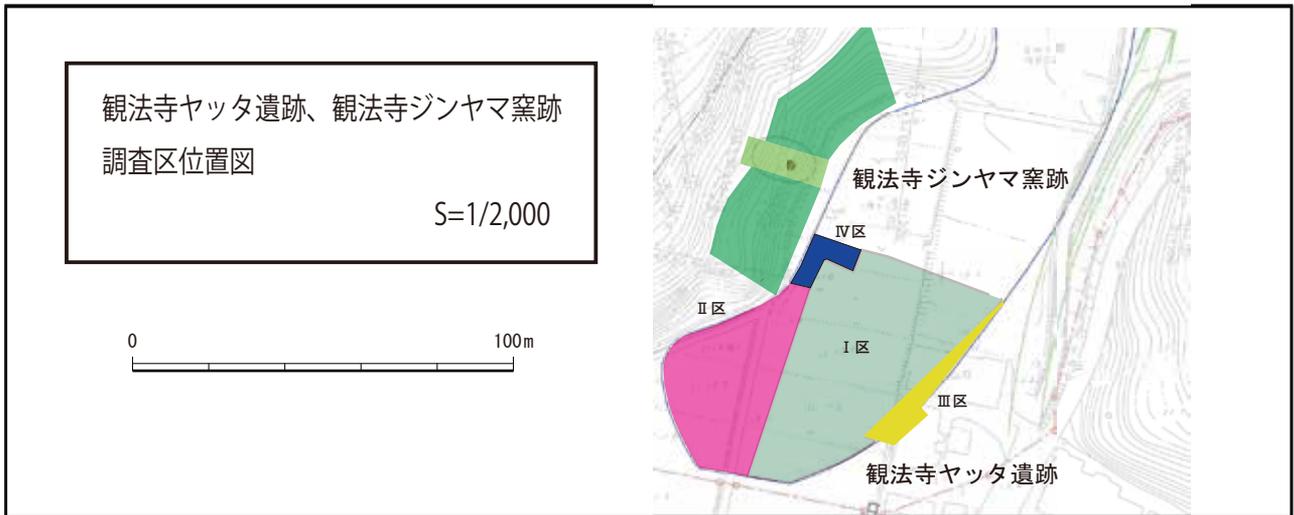
- ◎ 調査地 金沢市観法寺町地内
- ◎ 調査原因 国道159号(金沢東部環状道路)建設
- ◎ 調査主体 石川県教育委員会(調査担当:公益財団法人石川県埋蔵文化財センター)
- ◎ 調査期間 平成30年5月下旬~平成30年12月下旬(予定)
- ◎ 調査面積 7,650㎡(予定) 観法寺ヤツタ遺跡:6,350㎡、観法寺ジンヤマ窯跡:1,300㎡



周辺の遺跡

- ①観法寺ジンヤマ窯跡(7世紀後半)
- ②観法寺ヤツタ遺跡(古代~中世)
- ③観法寺墳墓群(弥生~古墳)
- ④観法寺ジンヤマ横穴(古墳)
- ⑤観法寺谷遺跡(中世)
- ⑥観法寺瓦窯跡(7世紀後半~8世紀前半)
- ⑦観法寺横穴群(古墳)
- ⑧観法寺窯跡(7世紀前半)
- ⑨岩出横穴群(古墳)
- ⑩岩出うつぼ遺跡(古代)
- ⑪観法寺古墳群(弥生~中世)
- ⑫伝弥勒寺跡(古代)
- ⑬観法寺遺跡(古墳~古代)
- ⑭梅田遺跡(古墳)
- ⑮亀田大隈岳信館跡(中世)
- ⑯南森本遺跡(古代)
- ⑰南森本ホリハタ遺跡(弥生~中世)
- ⑱南森本・塚崎遺跡(弥生~古墳)
- ⑲梅田B遺跡(縄文~近世)
- ⑳月影古墳群(古墳)
- ㉑梅田横穴群(古墳)
- ㉒深谷遺跡(縄文)
- ㉓深谷横穴群(古墳)

県内の遺跡情報は石川県埋蔵文化財センターのホームページでもご覧になれます

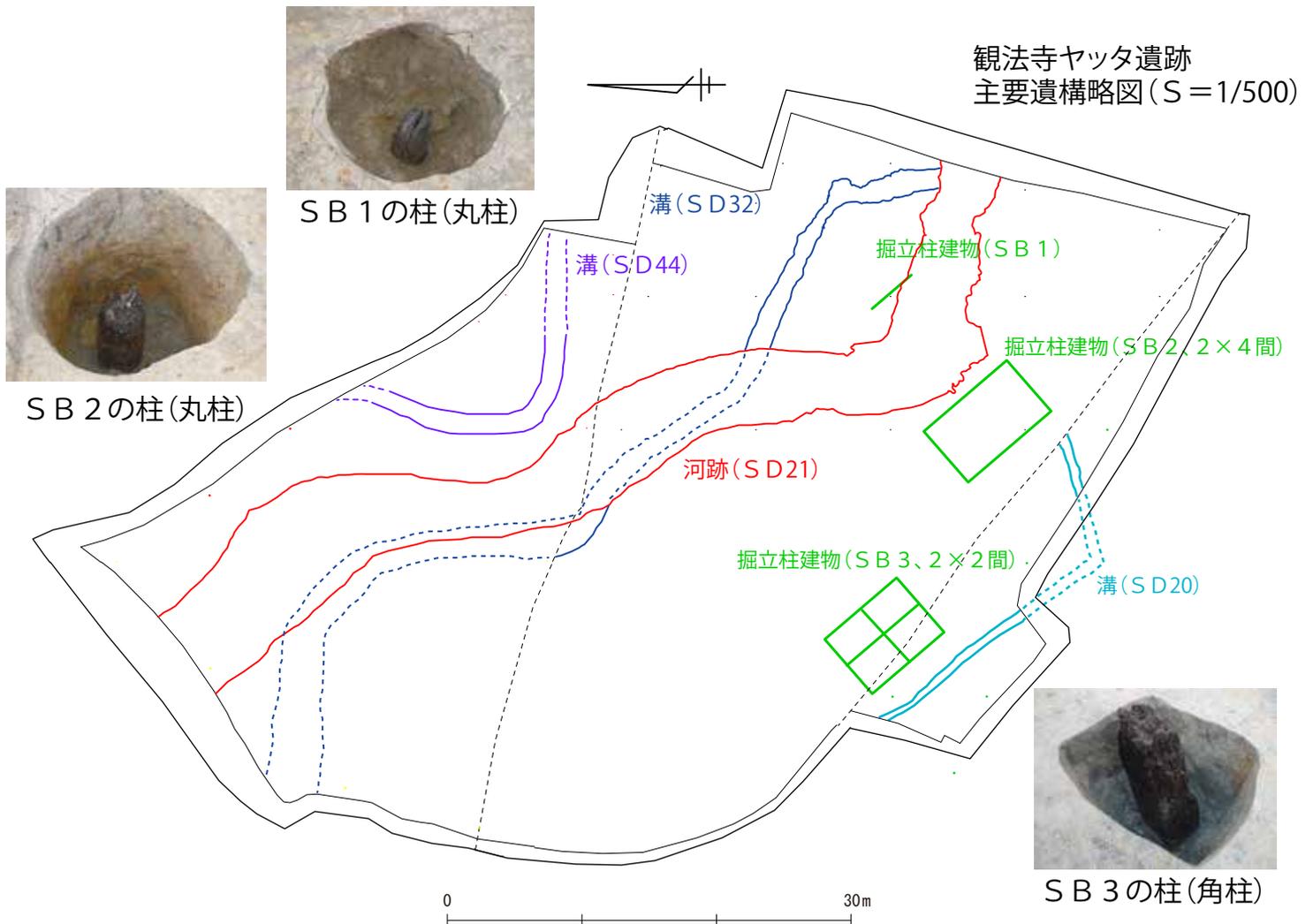


◎ 観法寺ヤツタ遺跡の概要

観法寺ヤツタ遺跡は金沢市域の北東部に位置し、東西方向に伸びる低位丘陵に挟まれた谷部に立地します。北側の丘陵斜面に観法寺ジンヤマ窯跡が、その尾根には観法寺墳墓群が所在します。

今回の調査で、古代から中世と推定される集落を確認しました。掘立柱建物、溝、河跡などを検出し、河跡（SD 21）からは平安時代の土器、漆器碗やジンヤマ窯跡で焼かれた瓦など、たくさんの遺物が出土しました。また溝（SD32）はそれ以前の遺構です。

掘立柱建物の柱穴から土器は出土しておらず、時期を特定できませんが、平安時代後半以降のものと考えられます。溝（SD20）からは7世紀後半の土器、溝（SD44）からは中世の土器がそれぞれ出土しています。





観法寺ヤッタ遺跡と観法寺ジンヤマ窯跡 (南東から)

◎観法寺ジンヤマ窯跡の概要

観法寺ジンヤマ窯跡は、平成14年度に丘陵斜面が削られ、開口した状態で発見されました。丘陵すそから谷部にかけて、トレンチによる確認調査が行われましたが、前庭部(窯前の作業場)や灰原(失敗品を廃棄する場)など関連する遺構は検出されず、消滅したものと判断されます。

周辺には、谷をはさんで西側に観法寺瓦窯跡、南側には観法寺窯跡(須恵器)が所在しています。

今回の調査の結果、窯の構造は、丘陵斜面をトンネル状に掘り抜き、排煙口を上にもっすぐ立ち上げる地下式直立煙道の窖窯であることがわかりました。燃焼部(薪を燃やす場)と焼成部(製品を焼成する場)、排煙口が残っており、残存長で9.5m、焼成部の床面で幅1.5m、天井から床面までの高さ約1mです。排煙口の背後に約1㎡の平坦面、排煙口の前にも掘り込みが作業スペースとして設けられています。窯壁なども比較的良好な状況で検出されました。



ジンヤマ窯跡 近景



焼成部の状況



正面から見た
ジンヤマ窯跡

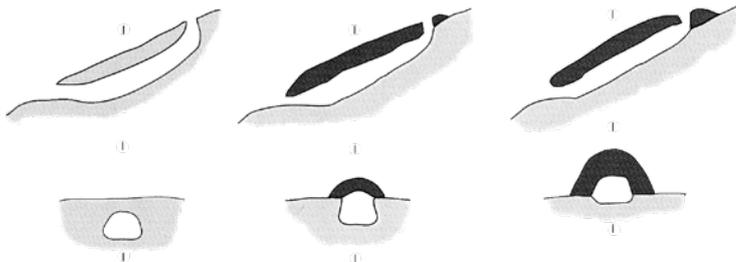


上から見たジンヤマ窯跡



須恵器窖窯での作業風景

『歴史発掘 10 須恵器の系譜』
(菱田哲郎 1996 講談社) より



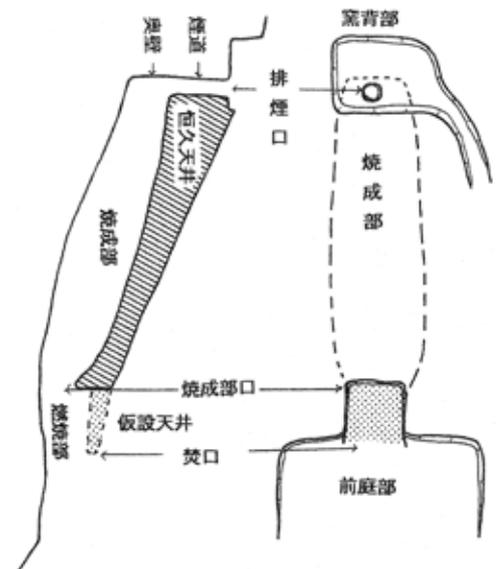
地下式 (掘り抜き式)

半地下式

地上式

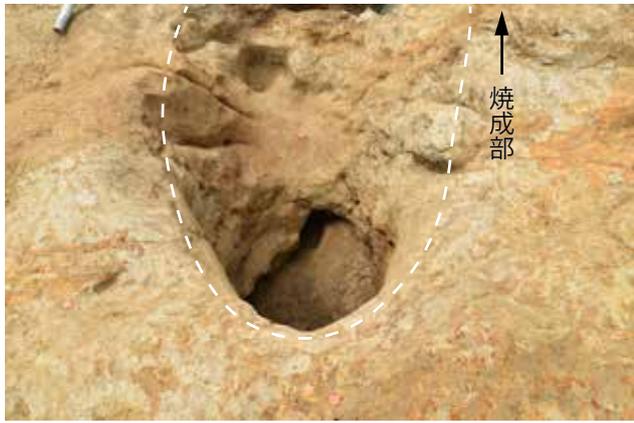
窖窯の種類

『年代のものさし—陶邑の須恵器』2006
大阪府立近つ飛鳥博物館



地下式窯の構造

望月精司 1999 「須恵器窯構造雑感」
『須恵器窯の技術と系譜』窯跡研究会



排煙口（北から）



焼成部床面付近 遺物出土状況



焼成部床面



燃焼部検出状況

窯の中から出土した瓦類では、軒平瓦、丸瓦、平瓦があります。須恵器では坏、甕の破片が出土しています。それらの中には、窯の中で割れたり、溶着したものが、製品を固定する置き台として用いられたものもあるようです。また、ヤツタ遺跡の河跡 (SD21) から出土した軒丸瓦もこの窯で焼成された可能性が高いです。軒平瓦の文様は重弧文と呼ばれ、7世紀後半に多くの寺院で取り入れられた文様です。軒丸瓦の文様は、大きくは複弁八弁蓮華文じゅうこもんに分類され、七尾市の能登国分寺跡のきまる (※国分寺になる前の寺院) や千野廃寺ちので出土する瓦の文様に似ています。これらの瓦や須恵器からみて、7世紀後半に操業していたことがわかりました。

生産された瓦が使用された場所については、同じものの出土例がなく、わかっていません。観法寺町内で採集された瓦との比較検討により、7世紀末に創建した金沢市広坂廃寺の創建当初の瓦は、観法寺町周辺の窯跡群で生産されたことがわかっています。詳細な検討はこれからですが、広坂廃寺でごく少量出土する重弧文軒平瓦のみ共通しており、大部分の瓦はジンヤマ窯跡の方がやや古い特徴があるようです。ジンヤマ窯跡は、広坂廃寺より少し前に建立された周辺の寺院に供給する瓦を生産していた可能性が考えられます。

◎まとめ

今回の調査では、今まで詳細のわからなかった観法寺窯跡群の一端が明らかになりました。周辺に存在する古墳や墳墓群の状況、平安時代後期 (11世紀代) の遺物が多く見られるヤツタ遺跡の集落の状況などが今後の調査で解明されれば、窯跡の前後の時期を通じて金沢市北部、森本地域の古代の様相がより一層鮮明になるものと思われま

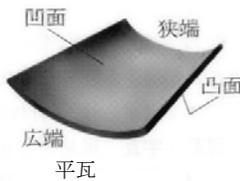
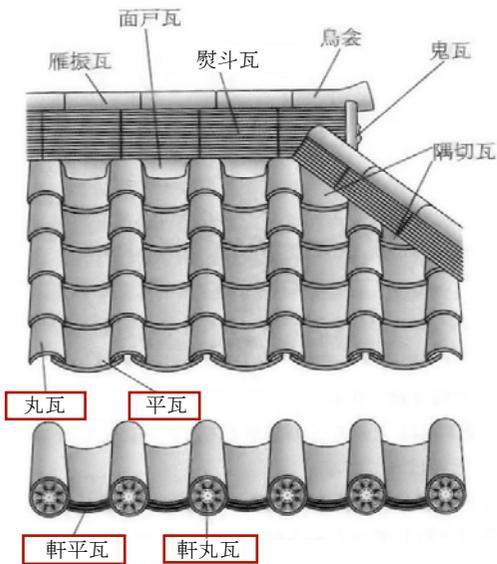
ジンヤマ窯跡の出土遺物



遺物出土状況 (燃烧部流入土)

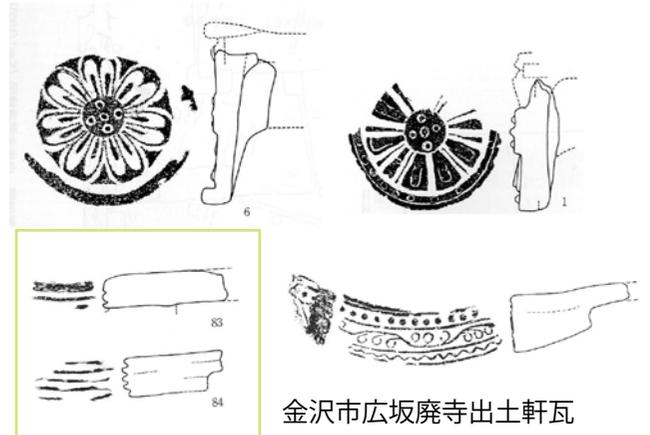


遺物出土状況 (烧成部西壁付近)



七尾市千野廃寺
出土軒丸瓦

『新修七尾市史 14 通史編 I』
2011



重弧文軒平瓦

金沢市広坂廃寺出土軒瓦
『広坂遺跡 (1 丁目) II』 2005 金沢市

瓦の名称と使用箇所

『考古調査ハンドブック 18 古瓦の考古学』
有吉重蔵 2018 より一部改変

今回出土している種類